



DV・性暴力の背景と地域の役割

～予防と早期発見 そして社会的支援～

【開催日・場所】

令和7年10月6日(月) 大洲市新谷コミュニティセンター

講師：越智やよいさん (公益財団法人えひめ女性財団 理事長)

青少年の非行防止・健全育成に向けた活動に従事する更生保護女性会の会員を対象に、DVや性暴力被害の現状と支援について学ぶ講座を開催しました。

若年層の間で起こるDV・性暴力は、殴る蹴る・性行為を強要するといったものだけでなく、言動や態度で相手を傷つけるDVや、性的な写真を撮ったり要求したりするデジタル性暴力なども含まれます。また、被害に遭うのは女性とは限らず、男性が被害者となることもあります。これらの暴力は「相手(恋人)からの愛情表現だから仕方ない」「男が性被害を訴えるのは恥ずかしい」といったジェンダーバイアス(性別による差別や偏見)により、被害者本人が暴力として認識していない、誰にも相談できない、という問題があります。こういった暴力被害を発見した際には、まず背景にあるジェンダーバイアス意識を取り除き、相談者に寄り添うように傾聴し、場合によっては専門の相談機関などにつなげることが早期の支援になります。

地域に根差した活動に取り組む中で身近な人の異変に気付いたり相談されたりするという参加者も多いようで、皆さん真剣に学んでおられました。

